

## 2022年度入学式 式辞

新入生の皆さん入学おめでとうございます。

本日、本科学生327名、第4学年編入学生5名、そして専攻科学生41名が入学する運びとなりました。

若くして技術者の道を選ばれ、本校への入学の栄冠を勝ち得た皆さんに、心からお祝いを申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、従来の入学式と一部異なり、密集を避け、保護者の皆様のご参加を1名に限定させていただきました。大変残念なことではありますが、ご理解ください。

さて、今年度、高等専門学校制度は創設60周年を迎えました。また、沖縄高専開校以来、実に20年ぶりに新たな2つの高専が開校されると話題となっています。これは、皆さんの先輩たちの、これまでの活躍が高く評価され、これからも高専が期待されている証ではないでしょうか。

本校では、「Society 5.0」時代の産業構造の変革に対応した“次世代ものづくり教育”を実現すべく、品川キャンパスの2コースを改編し、特徴ある新たな8コース体制で、皆さんをお迎えしています。第1学年では電気電子、機械、情報の基礎を学び、第2学年より各キャンパス4つ、合計8つのコースに分かれ、それ

それぞれの専門分野について深く学びます。本科を卒業後は就職、大学への編入学、専攻科への進学が、そして専攻科を修了後は就職、大学院への進学といった、多岐にわたる進路が選べます。

皆さんが将来、技術者として活躍する世界はどうなっているのでしょうか。新型コロナウイルスによるパンデミックは、あらゆる分野でデジタル化を加速させています。製造現場のデジタル化を進め、遠隔での設計やシミュレーションを可能とする、そんな新しい“ものづくり”が、もう始まっています。また、IoT技術により、すべてのモノが超高速なネットワークに接続され、リアルタイムで集めたデータを基に、AIを活用して、製造、小売、交通インフラ、医療等の様々な課題を解決する、そんな世界ではないでしょうか。

一方、EUは2035年にガソリン車やディーゼル車の新車販売禁止の方針を打ち出しています。これは、温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロにする目標を実現するための施策です。日本政府からも同様の目標が示され、本校も、昨年7月に気候非常事態宣言を発出し、取り組みを始めたところ  
です。

このように皆さんは、技術者として、デジタル化が益々加速し、かつ「地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような対応がされている社会」を目指す世界

で活躍することになります。

そんな未来に対し、新入生の皆さんには、技術を基に“夢”を持ってほしいと願っています。吉田松陰は、「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。」と語っています。夢から成功した先輩は多数います。例えば、初代マッキントッシュに“夢”を感じた卒業生は独力でアップルに入社し、現在でもアメリカ・シリコンバレーのGoogle社にて活躍を続けています。

主役は皆さんです。感性を育て、自分で感じ、考える訓練をしてください。自分の理解と考えを広げるため他者との対話も重要です。対話により技術をより深く理解でき、自分の知らなかった新たな面やその応用に面白さを感じ、未来の夢に繋がるかもしれません。

ところで、我々は絶えず小さな事柄を、やる、やらない、と選択して暮らしています。その小さな積み重ねが、やがて人生の進む方向を形作ることになります。皆さんはその選択をする際、何を基準にしていますか。好き、嫌いですか、それとも自分にとって良い、悪いですか。自分にとって良くて、好きならば一番都合良い選択肢ですが、自分にとって悪くても好きなら選択してしまいがちではないですか。もしそうでしたら、是非、嫌なことでも自分のためになる選択肢を、あえて選択できるよう習慣づけをし、夢に向かって小さな積み重

ねを続けられる自分を育んでください。

世界は、皆さんの柔軟な発想と行動力により、持続可能な社会の実現を期待しています。本日ここに集った多くの仲間とともに東京都立産業技術高等専門学校という舞台でみなさんが主役になってそれぞれの夢を叶えてください。われわれ教職員は全力で、皆さんを応援します。

最後に、皆さんが本校における学生生活を大いに謳歌し、ここに集う学友と共に未来を築くことを祈願して、式辞といたします。

令和4年4月5日

東京都立産業技術高等専門学校

校長 吉澤 昌純